

象の鼻地区の文化観光交流拠点について

主旨

象の鼻地区再整備事業については、**開港150周年を記念する事業**として、横浜港発祥の地である「象の鼻地区」を横浜の歴史と未来をつなぐ象徴的空間として再整備するとともに、ナショナルアートパーク構想の拠点の一つとして、**同地区の特徴を生かした文化観光交流拠点としても利活用を図ることができるように整備する計画を進めています。**
(中期計画重点事業6-3-1 ナショナルアートパーク構想の推進)

報告事項

○文化観光交流拠点の内容

(1) 野外ステージ

港や海を見わたす緑の丘を、多様なイベント等が実施可能な野外ステージとしても利用できるように整備します。

◇利用想定例

- ・開港150年イベント、横浜ジャズプロムナード、横浜トリエンナーレ
- ・ストリートミュージシャン、・パフォーマンスの発表の場

(2) 多目的レストハウス(約600㎡)

景観を楽しみながら休憩する機能(事務室・トイレ含む)とあわせ、観光としてのインフォメーションのほか展示・ギャラリー等の機能を付加した多目的レストハウスを整備します。

緑の丘の中になりますが、室内から海を感じられるような開放的な構造を計画しています。

◇利用想定例

- ・横浜港の歴史や臨海部の観光地等の紹介
- ・ギャラリー、展示機能(写真展、ポスター展、立体展示物展)
- ・パフォーマンス発表の場、ミニコンサート(200人規模)等



(1) 野外ステージの利用イメージ



(2) 多目的レストハウスの利用イメージ

参考

○基本設計の概要(裏面 参考資料 参照)

- (1) 基本理念を「時の港」～横浜の歴史と未来をつなぐ象徴的な空間～とし、基本的には港湾緑地として整備します。
- (2) Aゾーンは、市民が憩うオープンスペースとして整備するとともに、賑わい、イベントなどによる港の観光・文化芸術創造発信空間とします。
Bゾーンは、日本大通りからの通景空間を確保し、開港を記念する広場とします。
- (3) 象の鼻防波堤は、明治中期の形状に復元し、その他の護岸は歴史的景観に配慮し石積み形式を基本とします。

参考資料:象の鼻地区再整備基本設計 整備の概要(港湾局ホームページより)

(1)Aゾーン

水辺や夜景を楽しんだりする場として、水辺のプロムナードや親水護岸、港や海を見渡す緑のオープンスペースを整備します。

(2)Bゾーン

日本大通りから港への通景空間を確保した開放的な広場として整備します。

(3)象の鼻防波堤

市民意見なども踏まえ、明治20年代後半の弓形の形状に復元していきます。

(4)その他主な特徴

復元後の防波堤の曲線を活かしながら、スクリーンパネルを一定の間隔で配置することで、地区全体にわたる大きなサークル状の空間を演出し、開港の地としてのシンボル性と開港150周年を記念する象徴的な空間を形成します。また、スクリーンパネルを照明として活用することにより、地区全体で美しく魅力的な夜景を演出し、周辺からの展望できるような特徴的な場所とします。

